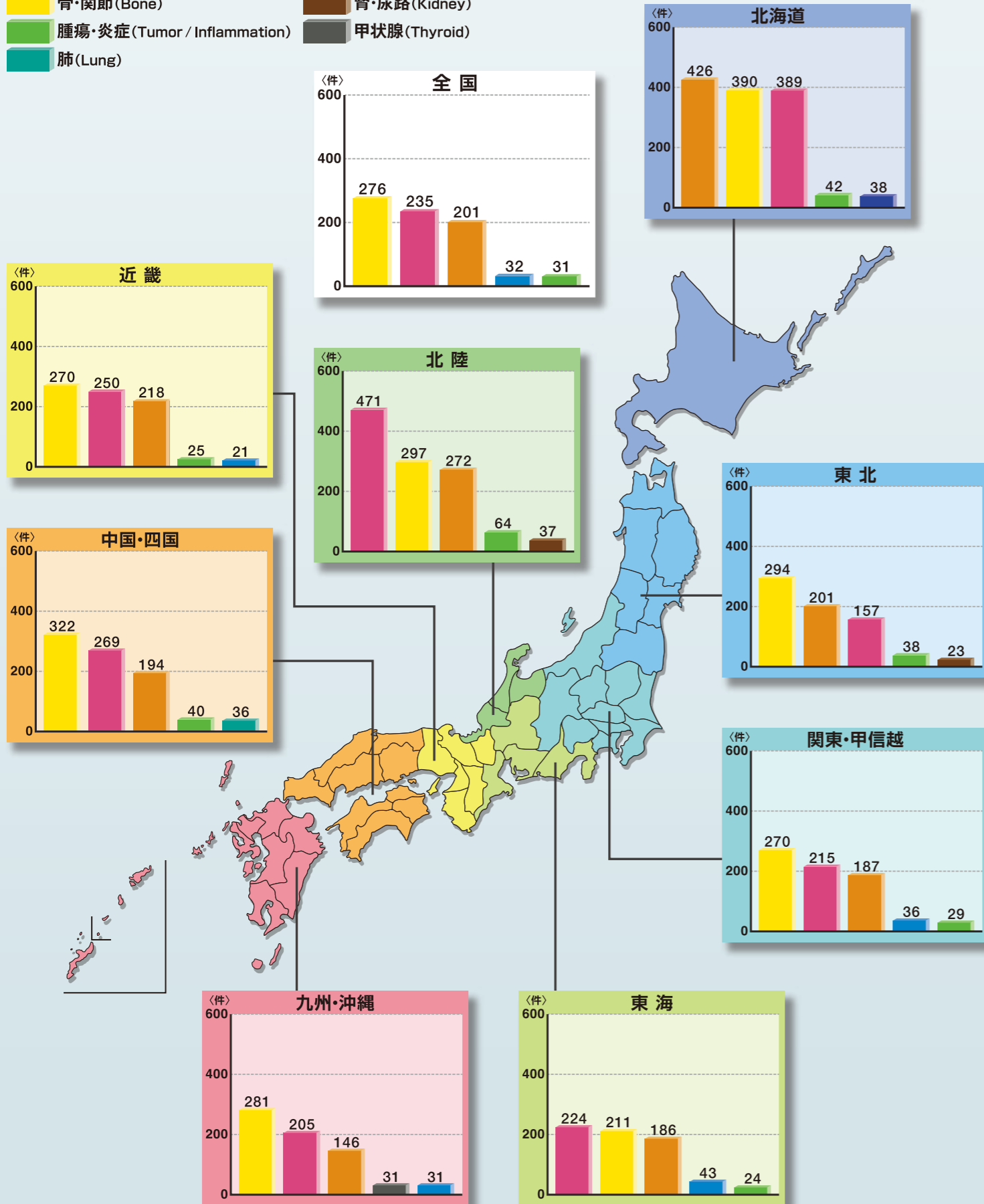


臓器別上位5位の年間推定検査件数

(地域別平均、人口10万人あたり)



第8回全国核医学診療実態調査(2017年度) 核医学診療の現状

日本アイソトープ協会医学・薬学部会全国核医学診療実態調査専門委員会では、核医学診療の実態を把握することを目的として5年ごとに「全国核医学診療実態調査」を実施しています。このたび、2017年6月に実施した第8回調査の結果がまとまりましたので、紹介いたします。

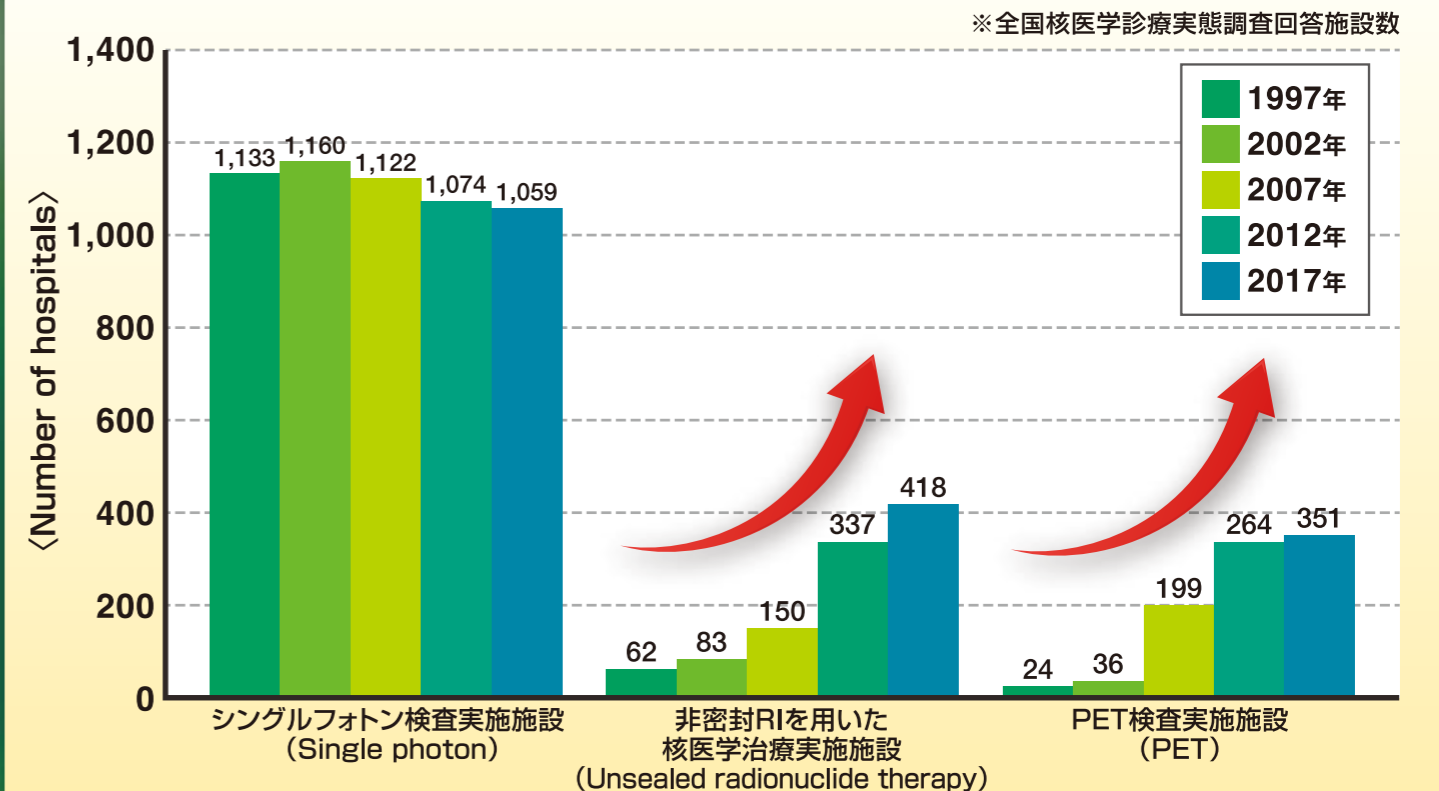
※第8回全国核医学診療実態調査報告書, RADIOISOTOPES, Vol.67, No.7, 339-387 (2018)

- RADIOISOTOPESはJ-STAGEで全文公開しています。
<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/radioisotopes/-char/ja/>
 また、本パネルの内容は、日本アイソトープ協会ホームページに
 ファイルを掲載いたします。
 日本アイソトープ協会TOP <https://www.jrias.or.jp/>
 >協会を知る>協会の活動成果を知る>医学・薬学部会>全国核医学診療実態調査報告



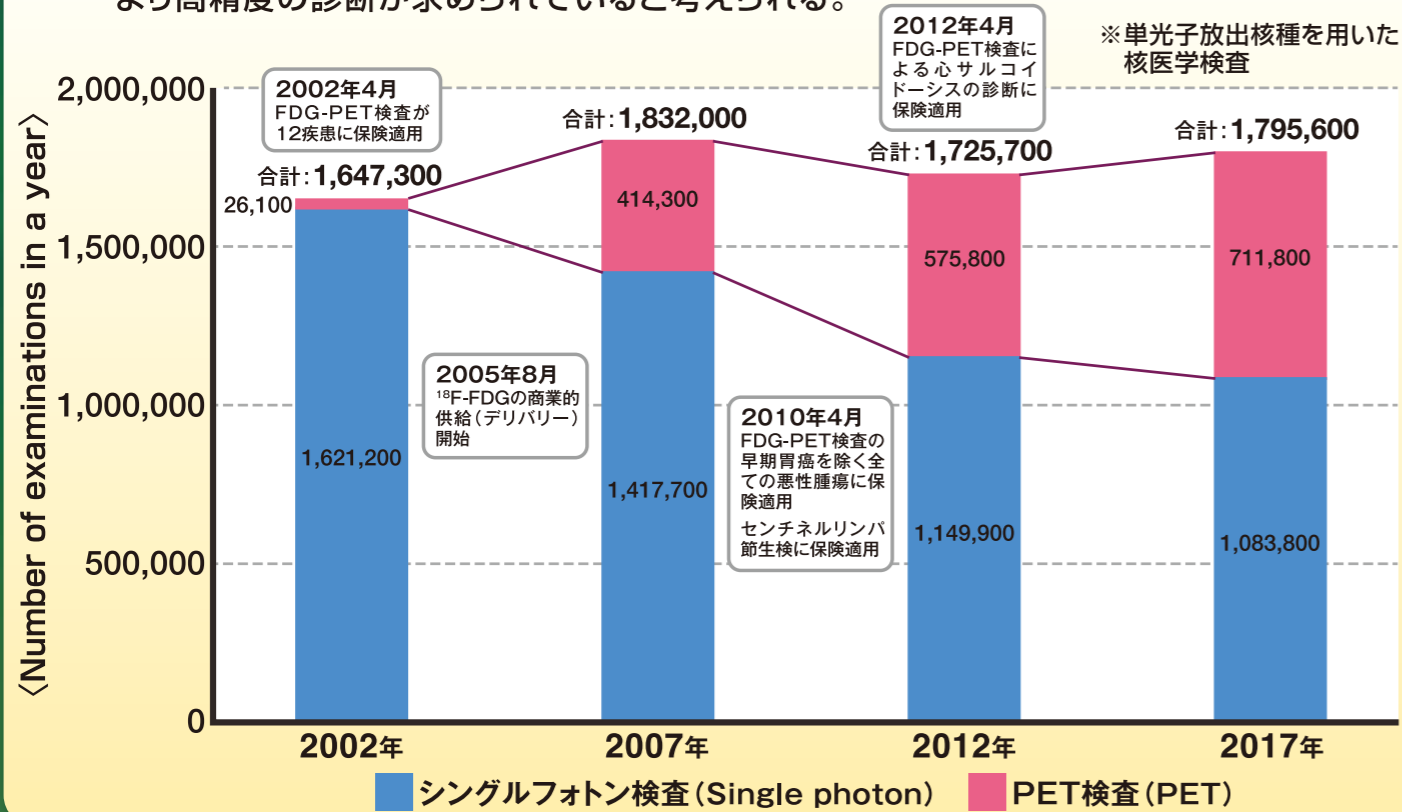
◆核医学診療実施施設数※の推移

シングルフォトン検査実施施設は漸減傾向だが、非密封RIを用いた核医学治療実施施設とPET検査実施施設は増加している。



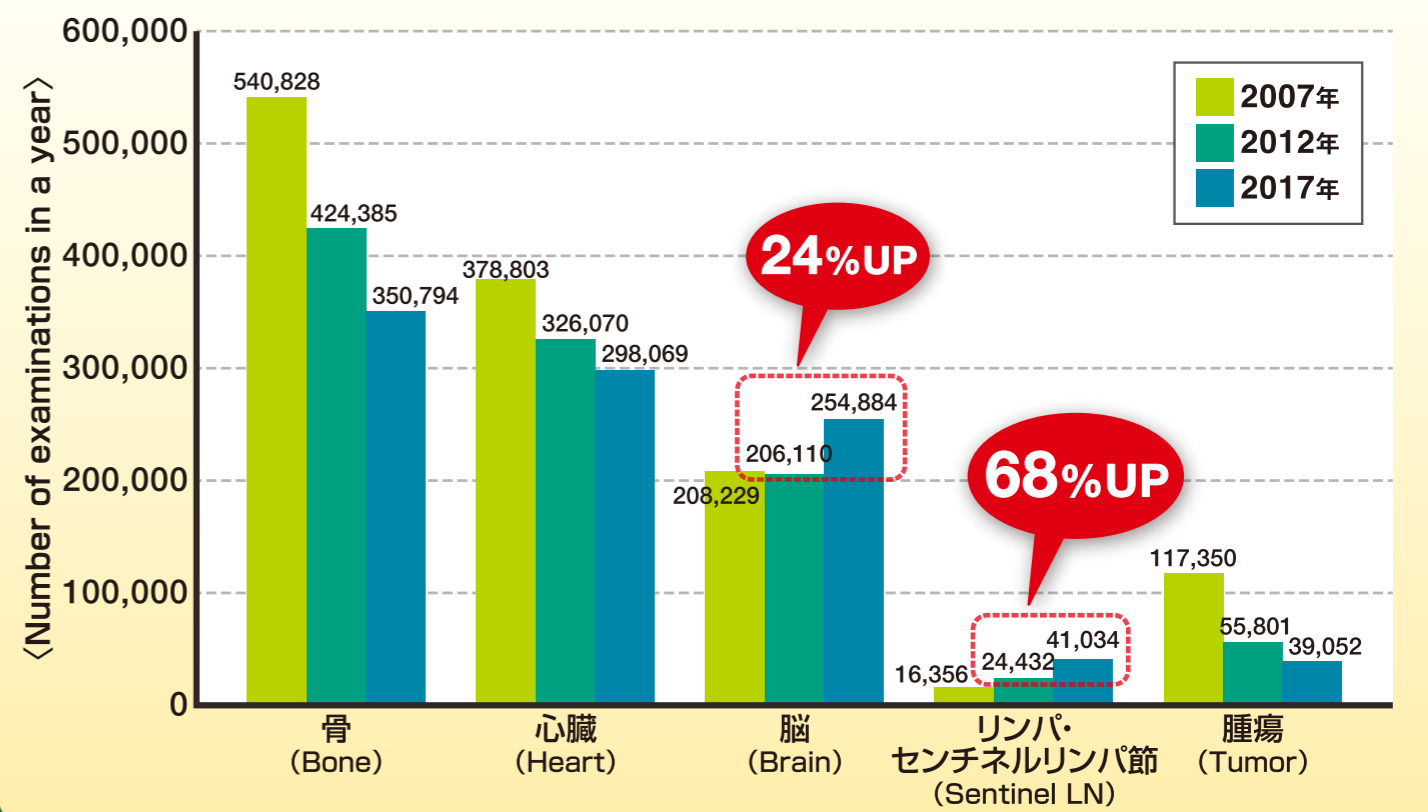
◆ シングルフォトン検査件数・PET検査件数 (年間推定)

シングルフォトン検査*の年間推定検査件数は前回調査より約6%減少した。一方、PET検査は約24%増加した。この結果、核医学検査総数は約4%増加した。より高精度の診断が求められていると考えられる。



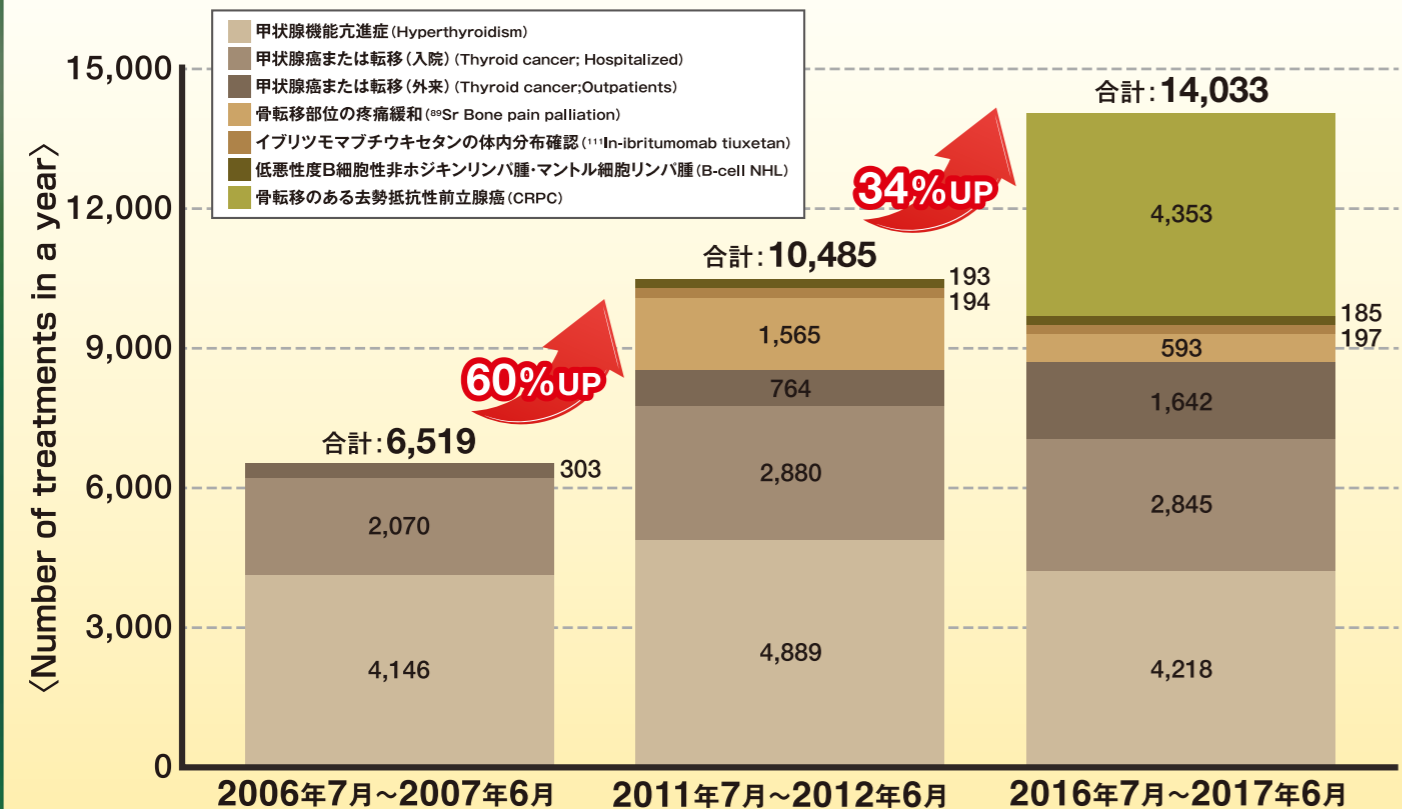
◆ 臓器別シングルフォトン検査件数 (年間推定)

シングルフォトン検査のうち、脳とリンパ・センチネルリンパ節の検査件数は大幅な伸びを示した。



◆ 非密封RIを用いた核医学治療件数 (年間)

非密封RIを用いた核医学治療件数は、²²³Raによる治療開始と甲状腺癌治療の増加により、治療全体で約34%増加した。



◆ シングルフォトン検査件数・SPECT検査件数割合 (年間推定)

単光子放出核種を用いた検査(シングルフォトン検査)総数は減少傾向である。一方、SPECT検査がシングルフォトン検査に占める割合は増加している。

